

## 古文書語句説明

反高たんだか

新田のうち，地租が粗悪，または出水のごとに押流されるなどの事情により，将来高に結びにくい収穫不足の場所，これに段別の身を丈量して低率の租税を賦課する。

計立はかりだて（斗立）

「とだて」とも読む。年貢米に延米を加えて納入すること。

小物成こものなり

田畑から収める年貢を物成というのに対して，年貢以外の山林原野などの収穫物に課する雑税。

張紙直はりがみ（値）段

江戸幕府の公定の米と貨幣との換算率をいう。年貢収納時に江戸城内に公示される。この値段により，農民の石代納，武士の俸禄支給が行われる。

口米・口永 くちまい くちえい

代官が地方支配に必要な経費を、年貢に対して賦課する。米納・金納の本租に賦課するもの。

石代 こくだい

田畑の年貢は米納を原則としたが、米に変えて金銭で納めること。

廻米 かいまい

米穀の輸送。または、米穀。

川々国役金 かわがわくにやくきん

河川に要する堤防費の賦課金。

包分銀 つつみぶぎん

上納金を納める際の賦課金。

小手形 こてがた

年貢を取り立てたときに交付する受領書。皆済までの納入ごとに発行される。